

# 世界の命運はインテリジェント・デザインに掛かっている

「自然は一人の創造者を指し示している」 — スティーヴン・マイヤー

Greatchain

December 1, 2022

「インテリジェント・デザイン」(ID と略す) という理論の存在を知り、20 年も前から、その日本への紹介に努めてきたが、ここにきて、彼らのグループからの連絡も盛んとなり、いよいよこの運動が世界を動かし始めた、私は感じている。それは、そうでなければならぬ。それが歴史の必然だからである。この運動を潰そうと企む者たちについても、その理由が何であるかわかっている。

この、スティーヴン・マイヤーの「指し示す」という言い方は、昔のような「神の存在証明」でなく、創造者が確実に存在し、そのあり方も明瞭だが、そのすべてを知ることはできない、ということを示唆する。私はこれを、紙の上にぼんやり現れた、染め抜きの、しかし可読の文字に喩えたことがある。その証明の仕方はいくつかある。次の私の記事の最後の部分を参照されたい—— <https://www.dcsociety.org/2012/info2012/180320.pdf> 重なるが、マイヤーの短い講義「進化：バクテリアからペートルーベンまで」がある—— <https://www.dcsociety.org/2012/info2012/191028.pdf>

その関連図書やビデオは、図書だけでも百を超えられると思われるが、それらは**読まないことを奨励されている**ので、知っている人はわずかであろう。これを奨励しているのは、直接的には、CIA の怖い方々だが、それ以上は顔が見えない権力者の方々である。しかし、少なくともこうした本を、手に取って読もうとする人々は——初めから悪意のある、または唯物論に凝り固まった人々以外には——宣伝されているような「ニセ科学」とは考えないであろう。

「知力を持ったデザインするもの」の**デザイン**とは何か？ これは、計画、意図、意志、目的、などのすべての概念を内包する。だからこれは、アリストテレスのいわゆる「4 つの原因」——物理的原因だけでなく、目的や計画の心の働きを含めた原因——を、論理的な論証によって再現したものと考えてよい。アインシュタインの、アフォリズムを連ねた語録を読んだことのある人なら、彼が世界のあり方と考えていたものが、ID 論者の考えるあり方と同じで、単なる物理学や数学を超えたものであることがわかるだろう。

ここに、言葉（語彙）の豊かさが不可欠であることがわかってくる。たとえばID論者は、「生命のための自然の数値の微調整」を論ずるときに、「絶妙の」exquisite という形容詞をほとんど必ず使う。これは微調整の「微＝精妙」fine とともに、なくてはならない言葉である。このような言葉に現れた、柔軟な精神がなければ、文系・理系を問わず、先端的な科学は期待できないことを知るべきである。アインシュタイン語録には、想像力、不思議、神秘的、目的、導き、価値、道徳、神、宗教といった、普通の科学者の使わない言葉が、豊富に見られる。

さらにつけ加えるとすれば、こうした本当の学問には、シンクロニシティ、直観、ホーリズムといった概念が、尊重されるべきである。そもそも生命の研究をする学者が、生命の無限の豊かさを論ぜず、生命は物質の一形態としか考えていないとしたら、滑稽であり、悲劇というべきである。昔、細菌学者のパスツールが言ったように、生命は生命からしか生じない。それを否定するのは勝手だが、それによって自分や自分の環境が、どれほど貧困な、どれほど学問の足を引っ張るものとなるかを、考えてみるべきである。私はかつて、高校の生物教科書をできるだけ多く取り寄せ、その点の記述がどうなっているか調べたことがあるが、教科書にはたいてい、無理をした英語の造語から訳した、奇妙くてれつな日本語が使われていた。

生命の概念が貧しければ、心も貧しくなる。そこに科学と芸術、そして科学と宗教との関係が浮かび上る。ディスカバリー研究所の、ID研究の一部門には、「科学と信仰（faith）」という項目が入っている。これを見ただけで、IDを敵視する者たちは、「科学は中立の立場で、客観的な事実を研究するものだから、唯物論・無神論が正しく、信仰などは全く関係のない、別のものだ」と、嘲笑するだろう。これは完全に間違っている。

まず、マイヤーが言うように、「自然は一人の創造者を指し示している。」自然は、生物学や物理学だけで出来ているのではない。「自然」とは、我々の体験するあらゆる事象の総体でなければならない。そこには不思議なこと、神秘的なことがかなり含まれている。死者の霊が存在することも、最近、特に際立って常識化してきた。また、マイヤーの言う「一人の創造者」は、出来合いの宗教の特定の創造者ではない。それは宗教や創造神話を前提とするものではなく、逆に、自然界について普通に行われる実証研究から、自然に割り出された、**いわば思いがけないものである。**

だから、この「一人の創造者」は、我々人類の共有する存在でなければならない、自分自身からも、人類からも切り離せない、私の一部として存在する。それは、ごく普通の直観によって、「愛なる神」として認識される。それは、我々と一体の「御霊（みたま）」である。しかし、もし我々が反逆して、この事実を否定したければ、我々に与えられた自由意志によって、この創造者を敵視する者、「サタン、悪魔」に与することもできる。そして我々は、

昔から教えられてきた通りの「サタン、悪魔」が、現実に存在することを知ることになった。我々は、意識的・無意識的にこの悪魔に与する者たちを、共産主義者として知っている。我々は、与えられた事実逆天に、自分の親を義絶するようなこともできる。

サタンや悪魔が、いわば（昔の言葉でいう）眷属を従えて君臨し、自分への忠誠の代償として、一定の保護を与えるのではなかろうか？ そうでなければ、悪の限りを尽くして何の罰も受けて、平然としていられる理由が分からない。

ここ数日、アメリカで報道されている、普通の頭では考えられない、故意の墮落＝人間破壊を目指すと考えられる、キチガイじみた——しかし政府は放置していると言われる——ペドフィリアが横行している。なぜこのようなことが起こるのか？ かつて我々は、バチカン僧によるこの種の犯罪行為を、悪魔による憑依現象と考えたが、これも、そのような悪霊か魔女による、子どもを対象とする異常行為のように思われる。（Infowars のニュースで Balenciaga という企業名をチェックしてみるとよい。）

公然と、人類を敵とする者たちが確実に存在する。そして、これを咎める者が誰もいないとしたら、我々は自分で立ち上がるよりほかないだろう。このような切羽詰まった抗議が、中国本土でも、現在、行われている。中国も、本質はアメリカと変わらず、共産主義者による、人民の生命を公然と無視する「医療暴政」が、暴動の原因のようである。

「創造者とか宗教とか、非科学的な愚かな思想を我々は許さない」と彼らは言うだろう。彼らはメディアと組んで、国民を欺きながら、政権の正統性を維持するために、共産主義（サタン主義）を貫こうとしてきた。——それはもう不可能になった。そのような政府や国家は、どこの国であろうと、最終的には確実に、自分と自国民を滅ぼすことになるだろう。